

[平成26年11月 定例会]

■森の力再生事業と田子の浦港しゅんせつ土砂恒久対策に関する富士市としての考え方、取り組みについて

◆16番（小池智明 議員） 本日最後の質問になりますが、よろしくお願ひいたします。

私は、さきに通告してあります森の力再生事業と田子の浦港しゅんせつ土砂恒久対策に関する富士市としての考え方、取り組みについてをテーマに質問いたします。

去る11月6日に、田子の浦港しゅんせつ土砂の恒久対策をテーマに、富士市議会第1回目の政策討論会が開催されました。国内でも数例しかない掘り込み式の港湾である田子の浦港は、潤井川、沼川等、流入する河川により運ばれてくる土砂を常にしゅんせつし続けなければならないという宿命を負った港湾です。政策討論会では、流入する河川ごとに、いかに流入量を減らすか、そのために上流河川部でのしゅんせつが重要との意見が多数を占めました。こうした意見を踏まえ、去る5日の本会議で国や県への意見書の提出が全会一致で議決されたところです。

また政策討論会に先立ち、8月に県田子の浦港管理事務所長を講師に招いて開催した議員研修会では、潤井川からの土砂流入量は上流部での砂防工事等の進展により減少しつつあり、相対的に沼川からの流入率が上がっているとの指摘がありました。一方、静岡県では、水源涵養、土砂流出防止等の公益的機能、イコール森の力が低下した森林を整備するため、平成18年度から県民1人年額400円の森林づくり県民税を賦課し、それを財源として、手が入っていない民有林を対象に100%補助で間伐を実施する森の力再生事業に取り組んでいます。

私は、平成22年6月議会で、富士市からの徴税金額と、それを財源とする富士市での事業実施済み金額に大きなアンバランスがあるため、事業採択要件の見直しを県に強く要望することを求めました。県では現在、平成18年度から平成25年度までの過去8年間の取り組みの中では相当の成果が上がっており、計画期間の最終年度となる平成27年度に向け、平成28年度以降も継続する意義を強調する広報が新聞等を通じて目立つようになってきています。

今回、田子の浦港しゅんせつ土砂の恒久対策に際しては、より上流の発生源、つまり森林地帯での対策がより有効であるとの考え方を背景に、改めて森の力再生事業の評価、課題、そして港湾の恒久対策について富士市としてどのように考え、取り組むか、質問いたします。

大きな1番として、田子の浦港に流れ込む土砂のしゅんせつについて。

1、沼川を通じて田子の浦港に流れ込む年間土砂量はどの程度でしょうか。

2、沼川を通じて田子の浦港に流れ込む土砂の維持しゅんせつに係る年間経費と市の負担金はどの程度でしょうか。

2番目として、森林の適正な保育と土砂流出量について、適切に間伐された森林と間伐されていない森林では、土砂の流出量は単位面積当たりどのくらい違うのでしょうか。

3番目として、過去8年間の森林づくり県民税と森の力再生事業について伺います。

1、富士市民及び法人等が納税した森林づくり県民税は、年間平均でどの程度でしょうか。

2、市内及び愛鷹山系における森の力再生事業の実施面積、事業費は年間平均でどの程度でしょうか。

3、愛鷹山系の森林で間伐が必要な森林は、全体でどの程度の面積でしょうか。また、間伐に必要な事業費はどの程度でしょうか。

4、愛鷹山系の森林で森の力再生事業利用可能な森林は、全体でどの程度の面積でしょうか。また、間伐に必要な事業費はどの程度でしょうか。

4番目として、田子の浦港に流入する沼川への土砂流出量を発生源から減らすという観点も加え、富士市として県に森の力再生事業の採択要件見直しや、しゅんせつ、つまり港湾予算を森林・林業予算へ組み替える等を強く要望すべきと考えますが、いかがでしょうか。

5番目として、ことし9月までに策定された田子の浦港振興ビジョンは、防災とにぎわいをテーマとしています。後追いの形にはなりますが、港湾維持の前提となる土砂恒久対策に関するテーマを追加した上で、この分野のビジョンと方策を検討、策定し、それに関係する事業を部会及び推進協議会で協議、進行管理していくことは考えられないでしょうか。

以上をもちまして、1回目の質問とさせていただきます。

なお、参考資料としまして、議員の皆様及び当局の皆様にはA4横紙を1枚配らせていただきました。質問の際に見ていただければと思います。よろしく申し上げます。

○議長（小山忠之 議員） 市長。

〔市長 小長井義正君 登壇〕

◎市長（小長井義正 君） 小池議員の御質問にお答えいたします。

初めに、森の力再生事業と田子の浦港しゅんせつ土砂恒久対策に関する富士市としての考え方、取り組みについてのうち、沼川を通じて田子の浦港に流れ込む年間土砂量についてであります。県が平成22年度に実施した港湾の深淺測量の結果から、港湾内に流れ込む土砂は年間約1万5000立方メートルと推計されております。

次に、沼川を通じて田子の浦港に流れ込む土砂の維持しゅんせつに係る年間経費と市の負担金についてであります。平成21年度から昨年度までの5年間の平均で約2億9000万円となっており、本市の負担金額は約2100万円であります。

次に、適切に間伐等がされた森林と間伐されていない森林では、土砂の流出量は単位面積当たりどのくらい違うかについてであります。間伐は、成長や形状の劣る木を中心に、森林に植栽した木の一定割合を伐採することで、森林内部に光を入れて下草等を保全し、肥沃な土壌を守るため行われます。これらの下草等は、森林の土砂流出防止に大きな役割を果たしており、地表面を覆うものが全くない裸地と比較いたしますと、落ち葉等から成る落葉層がある場合の流出量は裸地の2割程度、また、草等の下層植生がある場合では1割程度となるとの岐阜県森林科学研究所の試験結果が報告されております。また、林野庁のウェブサイトや宮城県作成のパンフレットでは、間伐された森林内では、裸地と比較して土砂の流出量が150分の1程度となる旨が紹介されております。

間伐による単位面積当たりの土砂流出量の変化につきましては、現在までに各地で試験

が行われ、間伐が土砂流出を抑制するとの結果が出されておりますが、試験地により降雨量、土質、土地の傾斜、試験方法等がまちまちであり、抑制した量も異なることから、日本全国に共通する数値としては確立しておりません。このため、お尋ねの数値を出すことはできませんが、間伐は森林内に光を入れることで下草等を保全し、土砂流出の防止に大きな役割を果たしており、非常に重要な作業であると理解しております。

次に、過去8年間の森林づくり県民税と森の力再生事業についてのうち、富士市民及び法人等が納税した森林づくり県民税は、年間平均でどの程度かについてであります。森の力再生事業とは、所有者の高齢化、後継者不足、材価の低迷から森林の手入れが十分でなくなり、本来森林が持っている水源涵養機能や土砂災害の防止機能が十分に発揮されない森林が増加していることから、本来の機能を取り戻すことを目的とし、森林整備を行う事業者に県が補助を行う制度であります。森林づくり県民税は、森の力再生事業を実施するための財源として導入されたもので、超過課税方式により個人県民税は年額400円、法人県民税は資本金等の額に応じた金額が徴収されております。本市の市民及び法人が納税した年間平均額につきましては、個人県民税の8年間の平均額で約5060万円であり、法人県民税につきましては、法人が複数の市町で営業した場合でも1つの市町に納税されることから、実情を正確に反映できませんが、昨年度の本市への納税分は約2210万円であり、

次に、市内及び愛鷹山系における森の力再生事業の実施面積、事業費は年間平均でどの程度かについてであります。昨年度までの8年間を平均いたしますと、市全体での実施面積は約24.5ヘクタール、補助金額は約2050万円、うち愛鷹山系での実施面積は約20ヘクタール、補助金額は約1400万円であり、

次に、愛鷹山系の森林で間伐が必要な森林は、全体でどの程度の面積か。また、間伐に必要な事業費はどの程度かについてであります。本市の愛鷹山系の森林は、国道469号、県道24号付近から沼津市との市境までの範囲に人工林約3300ヘクタール、天然林約1000ヘクタール、合計で約4300ヘクタールであります。人工林での間伐は、苗木を植栽してから伐採するまでの間に平均で10年から20年程度の間隔が適正とされていることから、間伐が必要な人工林面積は、15年前の平成11年度以降に間伐等が実施された約750ヘクタールを差し引いた面積、約2550ヘクタールと考えております。この面積に過去8年間の単位面積当たりの実績値を乗じますと、必要となる事業費は約18億円であり、この金額には間伐により生産された木材の売り上げや補助金等の収入は考慮しておりません。

次に、愛鷹山系の森林で森の力再生事業利用可能な森林は、全体でどの程度の面積か。また、間伐に必要な事業費はどの程度かについてであります。事業の利用可能な森林は、困難性、公益性、緊急性の3つの要件を全て満たす森林とされております。要件のうち、公益性を満たす面積は、愛鷹山系の森林では多くの部分が該当いたしますが、事業の採択につきましては、申請ごとに急傾斜、道からの距離、小規模所有であること等の困難性と申請時点での下草等の消滅、集団的な倒木の発生等の緊急性について審査が行われ、事業適用の是非が判断されます。このため、現時点の森の力再生事業利用可能な森林面積は把握できませんが、急傾斜、道からの距離等を一定程度考慮いたしますと、人工林では約1100ヘクタールと推定され、この間伐に必要な事業費は約8億円であり、

次に、田子の浦港に流入する沼川への土砂流出量を発生源から減らすという観点も加え、

富士市として県に森の力再生事業の採択要件見直しを要望すべきについてであります。事業創設当時からより申請しやすい事業とするために、本市の実情を踏まえ、主に申請の要件である急傾斜や道からの距離、小規模所有についての緩和を求めてまいりましたが、今後も引き続き強く要望してまいります。また、港湾しゅんせつ予算の一部を森林・林業予算へ組み替える等を強く要望すべきについてであります。県の調査では沼川を通じて田子の浦港には、年間約1万5000立方メートルの土砂が流入していると推計されており、ここ5年間の維持しゅんせつ土砂量は年間約5000立方メートルであり、港内への流入量に対し十分なしゅんせつが行われていない状態が続いております。このため、現況の港湾維持しゅんせつ事業費の予算を削減することは、田子の浦港の港湾機能低下を招くことになり、本市の海上物流拠点である田子の浦港が産業活動に与える影響は余りにも大きいことから困難であると考えております。

次に、本年9月に策定した田子の浦港振興ビジョンに土砂恒久対策を追加して、関係する事業を推進協議会で協議、進行管理していくことは考えられないかについてであります。港内への流入土砂量を減らすためには、流入河川の上流域での流出抑制対策が必要であり、国土交通省富士砂防事務所や県の河川部局、農林部局などの多くの関係機関がそれぞれの施策に基づき、本市を初め富士宮市、沼津市に及ぶ非常に広い地域で事業を推進しております。一方、田子の浦港振興ビジョンは、田子の浦港周辺の防災対策の推進と観光交流促進によるにぎわいづくりを目的に、埠頭を含む臨港地区を対象範囲として策定しており、田子の浦港振興ビジョン推進協議会の委員もこの対象範囲を考慮して構成していることから、推進協議会が主体となって土砂恒久対策の検討や進行管理を行うことは考えておりません。しかしながら、本市の海上物流拠点である田子の浦港の土砂恒久対策は、開港以来進めてきた維持しゅんせつ事業の重要な課題であると認識しておりますので、田子の浦港の適切な維持管理を行うためのしゅんせつ工法や発生源対策等の課題について調査研究すること等を目的として、県が設置している田子の浦港泊地維持検討技術部会に働きかけてまいります。

以上であります。

○議長（小山忠之 議員） 16番小池議員。

◆16番（小池智明 議員） 今回の質問は、議会でいろいろ議論をしたことに、さらに少し私なりの意見をプラスして提案をしたいと思っております。ただ、それをある程度数字として検証できないかということで、今回それぞれ皆さんにシートをお配りしましたので、もし数字を記入いただいた方はそれらをもとに見ていただければと思うんですけれども、最初に土砂の流入量ですけれども、年間1万5000立米入っていると。それをしゅんせつするのに2.9億円ですか。ただ、これは5000立米しかしゅんせつしていないんだよということで、実際にはそれをしゅんせつするとなるとその3倍ですから、9億円近くかかるわけですね。改めてその金額の大きさに驚くわけなんですけれども、ここで流れ込んでくる土砂というのは、もともとどこから来るんだらうということを確認したいんですけれども、一番の発生源というのはどこだというふうに今考えているのでしょうか。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） 市長のお答えの中にも入っておりますけれども、平成22年度に県が行った調査ですけれども、発生源はどこだということですから、潤井川由来のものが39%、沼川由来のものが24%、岳南排水路由来のものが20%、それから、流れている漂砂由来のものが17%というような数字が出ております。

以上でございます。

○議長（小山忠之 議員） 16番小池議員。

◆16番（小池智明 議員） 今、沼川からは24%ということですが、そうすると沼川から入ってくるもののもとのとどこからになるのでしょうか。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） 御質問の中にございますように、愛鷹山系の沼川の支川といいますか、そういうところから流れ込んでいるというふうに理解しております。

○議長（小山忠之 議員） 16番小池議員。

◆16番（小池智明 議員） そうしますと、毎年1万5000立米が愛鷹山系から流れてきているという認識で受け取りましたけれども、2番目の質問でありました間伐されている、されていないによって随分変わるということでしたけれども、お金の話は今の質問と別にしまして、仮に間伐を全てやった場合どのぐらいの流入量になるのでしょうか。先ほどの答弁ですと、岐阜県の森林科学研究所では20%になったり、あるいは10%、手入れがされている山と手入れがされていない山では、つまり5分の1あるいは10分の1まで減るという結果があるよという話がありましたけれども、それらを踏まえると、仮に愛鷹山系の手が入っていない森を全部間伐すると、下草が生えてきたり、いろんな条件がよくなってくると、1万5000立米の流出量はどのぐらいにまで減るというふうに見込まれるのでしょうか。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） 非常に難しい御質問でして、お答えの中にも入れさせていただきましたけれども、要するに決まった数値が出ていないということを御披露させていただいたので、2割、1割というのもございますし、林野庁のウェブサイトですと150分の1ということですから0.6%ですので、非常に効果がまちまちですので、ちょっと今、私どものほうでは、例えば仮にどの数字を使ってどうだということ試算をすれば物理的に出るのかもしれませんが、今手元ではそういうことをしておりませんので、申しわけございませんがお答えできません。

○議長（小山忠之 議員） 16 番小池議員。

◆16 番（小池智明 議員） わかりました。じゃ、本当にざっくりですけども、先ほどの数値をもとにちょっと確認していきますけれども、1万 5000 立米のものを仮に 10%から 20%じゃなくてもっと出てしまうとして、半分流出してしまうということで試算をして、毎年 7500 立米入り込むことになったとします。それでも 7500 立米とるには全部で 9 億円お金がかかるわけですから、それが半分になったとすれば 9 億円の半分、4 億 5000 万円が減るわけですね。4 億 5000 万円はしゅんせつ費にかかるけれども、半分の 4 億 5000 万円はかからないという計算になると思うんですが、仮に半分出てきちゃうということになると、さっきの答弁をもとに組み立てると、そういう計算でいいですか。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） しゅんせつにかかる年間経費を 2 億 9000 万円と申し上げましたけれども、これは我々が、市が負担をしていない公害防止事業費の負担も入っておりますので、一概にそう言えるかどうか、ちょっとこの短い時間の中ではお答えしかねます。

○議長（小山忠之 議員） 16 番小池議員。

◆16 番（小池智明 議員） 議事録に残る答弁ですから、数字のことはなかなかはっきり言えないと思いますけれども、ただ、今回私の趣旨というのは、しゅんせつにかけているお金の何割かを山にかけたら、少し長いスパンかもしれないけれども、四、五年すれば日が入って、下草が生えてくると流出率が随分下がる。だったら、港湾にかけている金を山へかけたらどうだと。そうすれば、例えば江尾江川ですとか、あるいは春山川、港だけじゃなくて河川の洪水被害も軽減できるだろうと。そういう観点でこの予算の組み替え、あるいは森の力再生事業の要件の見直しを強く求めるべきじゃないかなということで質問させていただいております。

ですから、仮の話で私の話を聞いていただきたいんですけれども、仮にさっきの港湾の予算を毎年半分かけられるんだったら、4 億 5000 万円を山へかける。そうすると、先ほど愛鷹山系で間伐が必要な森林の間伐事業費は全部で 18 億円だという話がありました。ということは、少なくとも 4 年で富士市の分は間伐ができるわけです。さらに、皆様のお手元にお配りした絵を見ていただきたいんですけれども、愛鷹山系沼川流域というのは富士市だけじゃないですよ。沼津市のほうも、ざっと見た感じで半分ぐらい流域をしょっているわけです。沼津市のほうだって山が荒れているわけですから、同じような面積だとすると全部で 36 億円かかると。年額 4.5 億円でいけば、9 年やっていけばかなり——私は流出率が 50%という前提で今計算しましたけれども、もし岐阜県の森林科学研究所が出した 1 割に減るんだよ、2 割に減るんだよということでしたら、もっともっとそれが圧縮されて効果も早く上がるでしょうし、しゅんせつにお金をかけなくても済むという理屈になると思うんですが、数字の話は別としまして、今の論理の組み立てというのは、産業経済部長、

どう考えますか。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） 理論的というか、議員のおっしゃっている意味はよくわかりますので、森の持つ多面的機能というものに非常に注目していただいているのは、我々としても扱っている部署としてはありがたいなと思います。実際には、現実的なお話をすれば、切り出した木がどういうふうに売れていくのかということも含めないと、なかなか循環といいますか、回っていかないかなと思いますので、数字上で費用を充てて、それが5年なりなんなりで完了するかというとなかなか難しい面があると思いますけれども、森林を再生させるというか、循環させることが災害等の防止にもなりますでしょうし、地下水等の水源涵養にもなりますでしょうし、CO2の削減ということにも効果があるというふうには認識しております。

○議長（小山忠之 議員） 16番小池議員。

◆16番（小池智明 議員） 多面的な役割ということで、本当にお金になかなか換算できない部分、そういった部分もしっかり認識されているということで、私は非常によかったなと思うんですけども、加えて、逆に見るとしゅんせつというのは、非常に失礼な言い方かもしれないけれども、公益性のない事業だなと。山のほうから土砂が出てきて、それをすくって、また山へ返すというどこかへ埋める。例えばそれが埋め立てだとか、あるいは新しい土地造成に使えばそれなりのメリットがあるかもしれないけれども、今の富士市を考えたそれはないわけです。そうすると、しゅんせつというのは非常に無駄なことをやっているんだなというのを改めて感じます。

また、今回は質問に入っていませんけれども、沼川から流れてきてSS——浮遊物質と一緒になくなってしまって、それがためになかなかいろんなところで受け入れを困難にしているという面もありますので、やっぱりもとでとめる、川のしゅんせつもしないで済ませる、山でとめるということをもとに考えなきゃいけないだろうなと思っております。その辺は認識が同じだと思いますけれども、最後のほうにも言いますけれども、そういう観点で、ぜひこれから森の力再生事業の要件の見直しを進めていってほしいと思っております。

もう1つ、これは地域内での資金循環という観点から少し意見交換をしたいんですが、田子の浦港は県の事業になるから、市のほうではどこまでわかるかわかりませんが、しゅんせつ工事を落札して実施している企業の、市内ですとか県内、あるいは県外別に区分した受注金額の比率というのはわかりますでしょうか。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） 私どもは市の負担金としては出しておりますけれども、実際に工事を行っているわけではございませんので具体的な数字はわかりませんが、聞いているお話ですと、いわゆる市内の事業者が請け負っている金額が約8割程度、残り

が大手建設会社が請け負っているものになるというふうなことを聞いております。

○議長（小山忠之 議員） 16 番小池議員。

◆16 番（小池智明 議員） ちょっと確認ですけれども、市内の業者が 8 割で、残り 2 割を大手の業者ということによろしいですか。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） はい。

○議長（小山忠之 議員） 16 番小池議員。

◆16 番（小池智明 議員） ちょっと見込みが違ったものですからあれなんですけれども、よく港へ行きますと、いわゆるマリコンと呼ばれる海洋土木の大手の会社のサルベージ船というんですか、しゅんせつの船があるものですから、私は、しゅんせつというのは専門の工事なものですから、ほとんど県外のそういったところがとっているのかなと思っていました。8 割というと市内にもかなりお金が回っているのかなという気はいたします。ただ一方、今回、山のほうにお金をということでしたけれども、これは森林組合がどこまで年間に作業ができるかということもありますけれども、間伐でしたらやはり地元の方を使って、地元にお金が落ちると。これは非常に地域での資金循環につながりますので、8 割が地元でしゅんせつできているよということになると、どちらも地元にはお金が回っているんだということになりますけれども、ぜひそんな観点からも意見交換したかったんですが、ちょっとこれはここで終わりにします。

森の力再生事業の要件緩和ですけれども、先ほどの答弁の中で、さっき 1 個、数字の中で確認できなかったんですが、個人の森林づくり県民税は 5060 万円、法人税は 2210 万円ということでしたけれども、これは森林づくり県民税として支払っている法人税ということによろしいんでしょうか、もう 1 度ちょっと確認です。お願いいたします。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） お尋ねのとおり、個人県民税につきましては、8 年間の数字を拾ってまいりまして 5060 万円ということですが、法人県民税につきましては、法人が複数の市町で営業されている場合については、納税したところで集計をされるということなものですから、富士市の分というのを分けることが難しいということで、平成 25 年度だけの数字を出させていただきましたけれども、2210 万円ということです。

○議長（小山忠之 議員） 16 番小池議員。

◆16 番（小池智明 議員） わかりました。そうすると、これは富士市だけのお金じゃな

いということですが、実は私が平成 22 年に質問したときには、そのときにはデータがわかったのかもしれませんが、個人と法人合わせて約 6300 万円、富士市から納税しているという数字をそのとき聞きました。平成 25 年度でも 5000 万円を個人で納めていますので、大体 6000 万円ぐらいと仮にしますと、平成 22 年度とそんなに変わらないということで、でも、富士市に実際森の力再生事業で来ている事業費は 2000 万円ちょっとだということは、3分の1しか来ていないわけですよ。当然、従来から要件緩和ということは言ってきたということでしたけれども、例えば森林組合ですとか、あるいは山を持っている皆さんに林政課等を通じていろんなヒアリングとかをされると思うんですけども、実際山を持っている人たちはどのあたりを一番要件緩和してほしい、あるいは具体的にこういうことで困っているんだという、その辺はどんなふうに伺っていますでしょうか。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） 申しわけございません、ちょっと私のところで実際にお聞きしていることで、こういうところが必要だよというようなお話を今私は持っていませんが、この 8 年間に全部で 33 カ所やっておりますけれども、主に桑崎ですとか中之郷、増川、岩本、南松野というようなところを事業箇所としてやっております。それから、平均の金額を申しあげましたけれども、平成 25 年度では、一番直近の数字で 3533 万 2000 円ということで、年によって変動はございますけれども、今若干ふえているような数字かなと認識しております。

○議長（小山忠之 議員） 16 番小池議員。

◆16 番（小池智明 議員） やはりその辺というか、最後の数字は多少上がってきているんですけども、やっぱり県に要望するにしても具体的に、富士市はこういったところが困っているんだよ、あるいは林政課と話をすると、富士市はこれまで林道を非常に積極的に整備してきたと。だけれども、一方で、この要件は林道から近いところは採択されないんだ、遠いところじゃないとだめだと。これは非常に理不尽な話だと思うんですよ。そういうことを踏まえて、ぜひ要望していただきたいなと思うんですけども、一方、県のほうでいろんなデータを今ウェブサイト上で出していますけれども、僕は見てびっくりしたんですが、沼津市のほうは何も林道整備をされていないんですよ。1本か2本、ちょろちょろとした林道が整備されているだけで、富士市のいわゆる内山、須津山、あそこの林道網と比べると非常に貧弱です。これだけ富士市は一生懸命頑張ってきたのに、荒れている山へと自分たちが納税したお金がなかなか戻ってきていない。これは非常に憤るところでありますので、ぜひそのあたりは市長みずから声を上げていただきたいなと思っております。

4 番は、そういうことも踏まえた中で、せっかく田子の浦港振興ビジョンをつくったものですから、あそこに今、県だとかいろんな機関も入って協議会をつくられていると思いますので議論をいただきたいなと思ったんですけども、少し趣旨が違うのでという最初の答弁がありました。一方、答弁の中でありました田子の浦港泊地維持検討技術部会、こ

ちらのほうはどういう構成で、市のほうはどういう立場の方が出席されるのでしょうか。

○議長（小山忠之 議員） 産業経済部長。

◎産業経済部長（吉田和義 君） この田子の浦港泊地維持検討技術部会につきましては、直近では平成 23 年度に開かれた以降、開かれておりませんが、平成 23 年当時いわゆる実践の最先端で動いている課長クラスの方々の技術部会ということで、メンバー構成を変えておまして、そのときは国につきましては、国土交通省の中部地方整備局の清水港湾事務所、それから静岡県につきましては、くらし・環境部の環境局生活環境課、環境衛生科学研究所、富士工業技術支援センター、それから交通基盤部のほうでは港湾企画課、港湾整備課、田子の浦港管理事務所、それから富士市としましては、環境部環境保全課、商工農林部工業振興課港湾振興室、それから都市整備部では土地対策課、そのほかに関係機関ということで富士商工会議所、それから環境保全協会、岳南排水路管理組合、田子の浦港利用促進協議会というふうに、大幅にといいますか、メンバーをふやましてやろうということで企画されたようでございます。

以上です。

○議長（小山忠之 議員） 16 番小池議員。

◆16 番（小池智明 議員） 今伺っていますと、メンバーはやはり港湾関係、産業界の皆さんですね。私は今回の質問の中で、やはりそういうエリアの中でしたら、しゅんせつをどうするだとか、港の使い方をどうするという視点からしか議論ができないんじゃないかなと思うんですよ。これは多分、田子の浦港管理事務所ですとか県が中心となって組織していると思うんですけれども、ぜひこれは後ほど市長にも意見を伺いたいんですけれども、メンバーの中に今回の質問で言っています県の森林担当のセクションですとか、あるいは市の林政課、あるいはもっと言うと田子の浦港というのは潤井川の流域もありますけれども、沼川水系で言うと沼津市も当然入るわけですね。向こうの農林農地課、あるいは東部農林事務所だとか、そういったところにもぜひ入っていただいて、単にしゅんせつをすればいいじゃなくて、しゅんせつがなるべく少なくて済むような山の維持管理、それらを含めてさっきの泊地維持検討ということをしていただきたいと思います。そういうことを言うていくのは、私は市長じゃないかなと思うんですよ。

市長は、市長の肝いりで防災とにぎわいをテーマに田子の浦港振興ビジョンを策定されました。ただ私は、富士市が田子の浦港をそういう形で利用していく、あるいは安全に守っていく、その大前提はやはり港をしっかりと土砂で埋まらないようにしていく、それがあって初めてできることだと思うんです。そういう考え方で今私が提案申し上げました、そういう部会があるのでそこで検討をしていくということでしたけれども、そこへと市長も、毎回出られないでしょうけれども、最初に乗りでいって、これから検討するんだったら山のほうも含めたメンバー構成にして、そういう観点からの議論もしてほしいよということをお願いしたいんですが、そのあたりは市長はどう考えますでしょうか。

○議長（小山忠之 議員） 市長。

◎市長（小長井義正 君） 今回、小池議員がさまざまなデータをもとに、田子の浦港の維持しゅんせつという最終的なテーマではあるわけですが、そのためにはいかに森づくりをしっかりとやっていくかという視点からの御提言ということで、非常にありがたい御提言をいただいたというふうに思っています。どうしても行政の部局は縦割りの中で対応しているということで、複数の部署がまたがるような事業、またはそういった発想というのは、まだまだ県においても十分なされていないのではないかなというふうに思っています。ですから、そういうことは我々が一番身近で感じているところでございますので、富士市として、県に対し、当然これは要望していかなきゃならないと思っています。ただ、それは単に、ある意味これまではしゅんせつ土砂の対策ということだけを予算要望してきたかもしれませんが、森づくり事業との関連の中で、これからは総合的に多角的な見地から要望していかなきゃならないなというふうに、今回の御提言をいただいて認識させていただきました。

1つ、これは（4）のところにかかかわると思うんですけれども、これまでの維持しゅんせつにかかかわる予算を組み替えるというお話ですが、これは実際にしゅんせつにかかかわる予算が十分配分されていて、結果的に1万5000立方メートル全てがしゅんせつされているということであれば可能だと思うんですけれども、実際には5000立方メートルしか対応できていないわけでございますので、その予算を森づくりのほうへと組み替えるということは現実問題としてはできない、その点は御理解いただきたいなと思っています。ですから予算枠総額をふやしてもらわないことには、なかなか事業の実施はできないであろうと考えますので、先ほど言いましたように、複数の部署がまたがる形の中で多角的な視点に立った恒久対策ということは、市の立場として県のほうに要望してまいりたいと思っておりますし、先ほどの答弁の中で申し上げました田子の浦港泊地維持検討技術部会が平成23年以降開催されていないという状況もでございますので、その位置づけ、また、必要であれば新たな部署がそこに加わっていくというようなことも提言できるのかなというふうに思っております。

いずれにしても、今回の御提言をいただいて新たな取り組みが必要であろうと、それが結果的に恒久対策、抜本的な対策になるというような御提言をいただいたということで、ありがたく拝聴させていただきました。

以上です。

○議長（小山忠之 議員） 16番小池議員。

◆16番（小池智明 議員） 予算の組み替えの話はよくわかります。市長がおっしゃるように、確かに、しゅんせつも必要なときはやらなきゃいけないし、森づくりのほうへ投資するということは、それは長い目で見ればしゅんせつもしっかりやることにつながるし、将来的にはしゅんせつの費用も減っていくということになりますので、ぜひそういうことを総合的に訴えていただきたいと思います。前例にとらわれずにチャレンジするということを市長は常に言っておられます。ぜひ田子の浦港泊地維持検討技術部会の中でも一言と

うか、大きい声でそれを述べていただきたいと思います。
以上、要望して質問を終わります。